

福島民報

2012 (平成24) 年
3月1日
木曜日

同郷の絆 今も 会津会百年

□1□

「会津会は同郷人の親愛を篤あつこし、その団結を堅固にするを以(もつ)て目的とす」(発足時の会津会規約第一項)。戊辰戦争に敗れ、会津を離れた旧藩士が絆を守ろうと東京で発足した「会津会」は今年、創立百年を迎える。逆境にあっても先人は荒廃した故郷の復興を願い、人材育成に心を砕いた。熱い志は東日本大震災から立ち上がることにする今の時代に通じる。会津人の心のよりどころになった会津会の一世紀を振り返る。

明治四十五(一九一二年)四月二十日、百子爵の松平保男を囲み、春季懇親会が開かれた。最後の会津藩士(小石川の松平邸に集った。最後の会津藩士)の一人、鈴木音治が

発足

会津会の創立を發議すると、全員が賛成し即

時成立が決まった。戊辰戦争から四十五年が過ぎていた。藩主

渡り、廃藩置県後は東

京で暮らす旧藩士も多かった。最初、現在の日比谷公園にあった旧家臣の關係が色濃く残っていた。

た。会津会発足時の幹事の一人、黒河内良は大正元年十一月発刊の会津会会報第一号に「会津人士に告ぐ」と題した論説を寄せている。有為な人材があるながら、活躍できない会津の無念を憂うと同時に、「会津魂の真髓を發揮するに努力せんことを希望する切なり」と、奮起を促した。

旧藩士心のよりどころ

藩主邸はその後、牛込市谷富久町に移り、明治二十年に小石川第六天町に松平邸ができた。旧藩主とのつながりは続いていた。

藩主邸はその後、牛込市谷富久町に移り、明治二十年に小石川第六天町に松平邸ができた。旧藩主とのつながりは続いていた。

「落城を忘れまい」と、会津会会報第一号には戊辰戦争で焼けた鶴ヶ城天守閣の写真が掲載されている

「落城を忘れまい」と、会津会会報第一号には戊辰戦争で焼けた鶴ヶ城天守閣の写真が掲載されている

出さう執事に指示したエピソードを、父保定(故人)から聞いたことがあ

出さう執事に指示したエピソードを、父保定(故人)から聞いたことがあ



「落城を忘れまい」と、会津会会報第一号には戊辰戦争で焼けた鶴ヶ城天守閣の写真が掲載されている

同郷の絆 今も

会津会百年

□2□

会津会の初代総裁に
は、最後の会津藩主・
松平容保の息子で会津

松平家代十二代当主の
子爵松平保男が就い
た。大正元(一九一
二年十一月発行の会津会
会報第一号に軍服姿の
写真がある。藩がなく
なっても、旧藩士にと

って会津松平家は象徴
的な存在だった。
その後、旧藩士だけ

人脈



会津会の初代総裁を
務めた松平保男子爵

でなく、会津出身者も
会に加わるようにな
り、同郷の絆は一層強
まっていく。会報には、
東京帝大総長などを務

めた山川健次郎や、黄
年のNHK大河ドラマ
「八重の桜」の主人公
・新島八重が出席した
記録もある。

の内の丸ビルに移った
が、戦時中も集まりは
続いた。
戦後になると、総裁
制から会長制に変わっ

大総長の鈴木勝が会長
に名を連ねた。
現在は川島広守(み)が
第五代会
長として会を束ねる。
内閣官房副長官として
活躍し、プロ野球コミ
ッショナーも務めた。

二十六年から毎年、東
京・上野の上野精養軒
で開かれている。会津
出身だった二村寿実が
支配人を務めていた縁
からだ。二村の計らい
もあって、上野精養軒
では多くの会津出身者
が働いていた。

著名な先人が会長に

年に保男が死去する
と、駐英大使や参院議
長を務め、当時副総裁
だった松平恒雄が総裁
に就任する。会津から
皇族に嫁ぎ、「賊軍の
汚名をそそいだ」とさ
れる秩父宮勢津子妃の
父親だ。会場は東京・
小石川の松平邸から丸

た。初代会長に就いた
のは東京都長官などを
歴任した飯沼一省。集
団自刃した白虎隊士で
唯一生き残った飯沼貞
吉の弟の息子に当た
る。第二代会は日本不動
産銀行頭取の星野喜代
治、第三代は東急専務
の柏村毅、第四代は日

川島は総会のあいさつ
や会報の巻頭言で「会
津人の誇り」や「矜持
(きょうじ)」を訴え
続ける。昨年発行の会
報第百十七号には「春
浅きとき、大震災にい
のち」を想う」と題す
る文章を書いた。
会津会の総会には昭和

会津若松市で飲食店
を営む堀金光治(み)が
喜多方市でも上野精養
軒で修業した。「会津
出身の先輩に厳しく鍛
えられた」と振り返る。
若者を育てる伝統は今
も、息づいている。(文
中敬称略)

同郷の絆 今も

会津会百年

□3□

東京都文京区千石の閑静な住宅街に四階建ての会津学生寮(至善寮)が立つ。会津会の事務局は一階にある。会津学生寮は財団法人が運営しており、会津会とのつながりは深い。「会津を、日本を担う人材を育てたい」という会員の思いが受け継がれている。

出身者のための寮は、会津学生寄宿舎至善寮として大正六(一九一七)年に開寮した。建

ず、また延べて我が全で、寮の完成を待ちきり。越意書は寄宿舎で「日新寮」をつくり、の必要性を強く訴え、大正四年に文部大臣の設立許可が出る。近くで自炊生活を始めたエピソードを紹介し、「郷土の学生は非と、東京帝大総長の山川健次郎をはじめ会津の会員らが中心となる。寮長の目下幸雄(六八)は、長男が寮生だったこともあり、若松中学校長を退職後に会津若松市を離れ、寮母の妻イク(六四)と共に住み込

日本担う若者よ育て

設運動は明治二十(一八八七)年ごろから在京有志の間で始まり、同四十四年に設立の趣意書が発表された。

「旧藩学生の成功は是(これ)独り会津地方の栄福たるのみならず、また延べて我が全で、寮の完成を待ちきり。越意書は寄宿舎で「日新寮」をつくり、の必要性を強く訴え、大正四年に文部大臣の設立許可が出る。近くで自炊生活を始めたエピソードを紹介し、「郷土の学生は非と、東京帝大総長の山川健次郎をはじめ会津の会員らが中心となる。寮長の目下幸雄(六八)は、長男が寮生だったこともあり、若松中学校長を退職後に会津若松市を離れ、寮母の妻イク(六四)と共に住み込

って資金集めに奔走した。現在の財団法人理事長は会津会会長の川島(六〇)が、親代わりで学生

み、親代わりで学生世話をしている。「寮の歴史を振り返ると、会津人を育てたいという先人の熱い思いを感じる」という。

東京に遊学する会津

人材育成

「旧藩学生の成功は是(これ)独り会津地方の栄福たるのみならず、また延べて我が全で、寮の完成を待ちきり。越意書は寄宿舎で「日新寮」をつくり、の必要性を強く訴え、大正四年に文部大臣の設立許可が出る。近くで自炊生活を始めたエピソードを紹介し、「郷土の学生は非と、東京帝大総長の山川健次郎をはじめ会津の会員らが中心となる。寮長の目下幸雄(六八)は、長男が寮生だったこともあり、若松中学校長を退職後に会津若松市を離れ、寮母の妻イク(六四)と共に住み込

めた星野喜代治は寄宿舎の一期生だった。開寮六十周年記念誌の中

「拓殖大政経学部三年、会津若松市出身」は会津なんだと思う」と話す。会津の心を忘れないよう、寮長室には会津で舞われる彼岸獅子の絵が飾られてい

な。自分のベース。 (文中敬称略)



会津学生寮から通学する古川さん(左)と、親代わりで世話をする日下さん夫妻

同郷の絆 今も

会津会百年

□4□

会津会の会員は約七百五十人を数える。当初は旧藩士が中心だったが、後に会津出身者が加わり、近年は会津にゆかりのある人や「会津ファン」も参加している。拓殖大名菅教授で会津会創立百周年記念事業実行委員長

先人の遺徳をしのぶ

の郡 菅野権兵衛の子孫に当る。昨年まで百十七号を刊行した会報をたどり、百周年記念式典で配る冊子「会津会百年のあゆみ」をまとめた。「先人が築いた歴史を振り返り、会津を誇りに思う気持ちや愛

活動

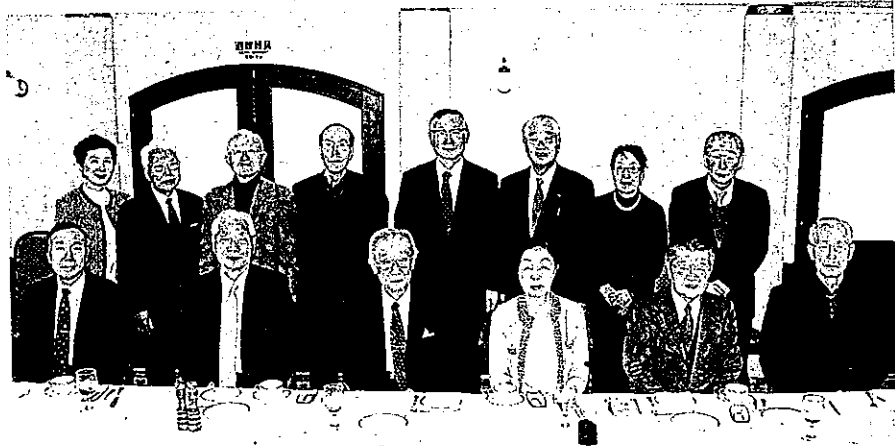
する思いを一層強くしたと話す。平成十六年から幹事を担う遠藤輝男(むつ)も上る。戊辰殉難者春季祭典(四月、会津若松市)や土津神社春季大祭(五月、猪苗代町)だ

別な思いを抱く一人だ。会津坂下町出身で東京で商社を経営し、日本オールドゴルフ協会

などを経任した。「会津なくして今のわれわれはない。だからこそ先人の遺徳をしのび、供養する活動は続けなければならない」と肝に銘じる。

催される式典に役員が交代で参加している。夏ごろには記念誌を発行する予定で、郡は「同郷の絆や精神的なつながりの大切さをあらためて思う式典になれば」と、最後の準備に追われている。

(文中敬称略)



創立100周年記念式典の打ち合わせに集まった記念事業実行委員

